

第二十八回

新城

薪能

TAKIGI
NOH

平成29年

8/19 (土)

16:00 開演
(15:30 開場)

新城文化会館
大ホール

全席自由 入場無料

塚狐
渡王
黒佐
仁

能
言言舞
狂狂仕小

演目

「新城薪能」がもっと楽しめる!
演者が語る新城薪能

演目の内容や見どころについて演者が分かりやすく解説します。どなたでもご参加できます。

日時:8月16日(水) 13:30~15:30

会場:新城文化会館 301会議室

しんしろ文化財に親しむ会

お問い合わせ先

新城文化会館

TEL 0536-23-2122

〒441-1381 愛知県新城市字下川一丁目

受付時間/八時三〇分~十七時

休館日/毎週月曜日(祝日の場合は翌日以降の最初の平日)

主催/新城市、新城市教育委員会

主管/新城地域文化広場文化事業運営委員会、新城薪能実行委員会

後援/新城市文化協会



第28回 新城薪能番組表

十六時から

火入れ式

仕舞

連吟 松虫

小舞

仕舞

連調 籠太鼓

十六時五十分頃

狂言 佐渡狐

仕舞

〜休憩〜

十七時四十五分頃

市長あいさつ

十七時五十分頃

狂言 仁王

十八時二十分頃

能 黒塚

十九時二十分頃

終演予定

※進行によって、時間が前後することがありますのでご了承ください。

狂言

佐渡狐

登場人物 佐渡の百姓／越後の百姓／奏者

年貢を納めに越後の国の百姓と佐渡の国の百姓が同道することになります。お互いに国の自慢話をしている内に、越後の国の百姓が佐渡の国に狐がいまい、佐渡の百姓は狐がいると争いになり、刀を賭ける事になります。実は佐渡には狐がいまいので、佐渡の百姓は狐を全く知りません。領主の館の奏者に判定をまかせることになりますが、佐渡の百姓は奏者に袖の下を渡して狐はいることにしてもらいます。そして狐がどの様なものかその特徴を教えてもらいますが、鳴き声について聞いておかなかつたばかりに…。

仁王

登場人物 仁王／助手／立衆／参詣人

博奕で財産を散々に失った男は、街を離れる決心をし、日頃世話になっている知人に、別れの挨拶に出向きます。訳を聞いた知人は、上野に霊験あらたかな仁王が降臨したとうわさを流し、自ら仁王になりすまして、参詣人から供物を手に入れたらどうかと提案します。これは名案だと、男はさつそく仁王の姿に身を変え、仁王になりすまし立ちますが…。

薪能に参加しませんか？

新城薪能では、演能者を募集しています。流派や経験は問いません。能、狂言に興味がある方はお気軽にお電話ください。
新城市教育委員会 生涯共育課 0536-132-0648

能

黒塚

登場人物 前シテ／里女

ワキ／山伏
アイ／東光坊の能力

後シテ／鬼女
ワキツレ／従者

奥州の安達原で行き暮れた回國行脚中の那智の山伏 東光坊祐慶の一行(ワキ・ワキツレ)が、野中に二軒家を見つけ一夜の宿を頼みます。作り物の中にいる家主の里女(前シテ)は、一旦は断りますが重ねて頼み込み、何とか泊めてもらう事ができます。家の中で見慣れない道具を見つけた祐慶は女に尋ねます。求めに応じ糸繰りの様子を見せる女は、辛い業から離れられない我身を嘆き、はかない世をつくづく語ります。夜が更けると女は、薪を取りに行く祐慶に告げ留守中に自分の寝室を覗かないようにと念を押して出て行きます。(中人)ところが、能力(アイ)は、祐慶の目を盗んで寝室を覗いてしまいます。そこはおびただしい数の死骸が山のように積まれています。女は安達原の黒塚に住むと噂の鬼でした。慌てて逃げ出す祐慶らに、鬼に姿を変えた女が怒りに燃えて追いかけてきますが、祐慶らの祈りによって鬼は夜風の音に紛れるように姿を消してしまいました。
前場は秋の夜の物わびしき、人の世のはかなさを表現することに重きが置かれ、後場は恐ろしい鬼女と山伏とのたたかい『動』に転換され、この対比の面白さが本曲の醍醐味と言えます。

※シテ：主人公。能では面をつけて扇を持ち舞います。

狂言の主役もシテと呼ばれます。

ワキ：脇役。人間の男性役がほとんどで、

状況の説明やシテと会話をし物語を進めます。